

いざ鎌倉、危機に企業集う

鎌倉発イノベーション

だれもが認めるブランド都市「鎌倉」。実は財政は火の車で、急速な高齢化やゴミ問題など街としての課題も山積みだ。そんな危機に若手を中心とした経営者が立ち上がった。NPOも援護射撃する。「鎌倉発」社会(ソーシャル)イノベーションの今を追った。

吉田広子(オルタナ副編集長)、池田真隆(オルタナS副編集長)



カマコンバレーの熱気

月に1度開催される「カマコンバレー」では、鎌倉の街や経済を良くしようという若手経営者が集い、激論を戦わせる



鎌倉投信の挑戦

鎌倉の古民家を改装した本社。「いい会社」に長期投資するという独自の投資哲学を通じて、社会を良くしようと試みる

財政赤字・超高齢化進む

世界遺産に落ちた理由

2013年6月。ユネスコの世界遺産登録に沸いた静岡県や山梨県と明暗を分けるように、鎌倉市の申請は見送られた。

ユネスコの諮問機関・イコモスは、世界遺産「不記載」が適当と勧告した理由を「物的証拠が不十分だった」と説明したが、実はそれだけではない。登録に向けて、市が一体となって動けなかったのだ。メーカーズシャツ鎌倉の貞末良雄会長は、「市・住民・企業間それぞれに対立がある」と指摘する。

同社は1993年、鎌倉市雪ノ下にあるファミリーマートの2階から始まった。鎌倉は妻・民子さんの生まれ故郷



メーカーズシャツ鎌倉の貞末良雄会長

でもあり、この土地に愛着を感じて、鎌倉市の市政アドバイザーも務めている。貞末会長は、「『鎌倉ブランド』の恩恵を受けている企業や住民は、もっと地域に貢献するべきだ」と力を込める。

貞末会長は、世界遺産登録が叶わなかった理由を「これ以上観光客が増えることを嫌う住民もいるし、少し離れた大船地区に住む住民たちの帰属意識も低く、意見がうまくまとまらなかった」と説明する。

毎年1900万人にも及ぶ観光客の多さについて、住民からは「観光客に庭を汚された」「あちこちにゴミを捨てられた」と、市へのクレームが殺到するという。松尾崇・鎌倉市長は「職員がそのような電話を取るたびに萎縮してしまう」と話すほどだ。

「3R」から「2R」へ

鎌倉市の財政は火の車だ。

2012年から4年間で、約107億円の財源不足に陥っている。その主な原因とされているのが、市職員の高給問題である。

市職員の平均給与月額は2009年度に51万8906円。これは、全国1782(政令指定都市を除く)の地方公共団体の中で、トップだった。給与が高額になったのは、「住居手当」や「時間外勤務手当」に支払われる「諸手当」が高いからだ。2009年の諸手当は平均月額16万5406円で全国1位。一方、平均月額給料は35万3500円で全国47位だった。

松尾市長は2009年11月に就任し、すぐにこの「諸手当」問題に取り掛かった。2010年から住居手当を1億円、時間外勤務手当を2億円削減して、2012年8月からは、職員の給料を平均で7%削減した。これにより2年間で総額17億円以上の財政効果を生み出した。

2012年の市職員の平均年収は704万円と、2009

年の801万円から下がったものの、市の高コスト体質は改善されていない。ゴミの削減も迫られている。鎌倉市のゴミの焼却量は、年間4万トだが、2015年3月末には年間1万トを焼却していた「今泉クリーンセンター」の廃炉を迎える。そのため、1万ト分のゴミの削減が求められている。

もともと、鎌倉市はリサイクルに特化していた。2代前の竹内謙市長が「環境自治体」を目指し、リサイクルを推進した。2004年から2008年までは、人口10万人以上50万人未満の市町村の中で、全国1位のリサイクル率を更新していたが、「費用対効果で見たときに、コストがかかりすぎて、環境負荷の低減になっていない可能性もあった」(松尾市長)。

そこで松尾市長は、「3R」からリデュース(削減)、リユース(再利用)の「2R」に方針を切り替えた。

さらに、家庭系ゴミの「有料化」を導入する方針だ。2014

鎌倉市は4年で100億円足りない

「鎌倉市 後期実施計画書」を参考に編集部で作成

